

県畜産研 豚コレラ確定

県内3例目 500頭処分へ

種豚も飼育、知事が謝罪

美濃加茂市前平町の県畜産研究所養豚・養鶏研究部で、家畜伝染病「豚コレラ」に感染した疑いがある飼養豚が見つかったという問題で、県は5日、国の遺伝子解析により感染が確認されたと発表した。豚への感染は3例目で、県の施設では初めて。県は同施設で飼育する約500頭の豚を全て殺処分する。これまで防疫対策を主導してきた県の施設で感染が見つかり、県は抜本的な対策の見直しを迫られる。

同研究部では県のブランド豚「ボノポーク」の種豚を飼養。種豚が殺処分されると生産農家は供給源を失う。一部の民間農場でも種豚を保有しているが、霜降り肉の品種改良など、ブランドの再構築には数年かかるとみられ、県畜産業界に深刻な影響を及ぼす可能性がある。

県は5日午前8時半すぎから県家畜伝染病防疫対策本部員会議を開催。古田肇知事は「防疫態勢として十分に取り組んでいるはずの、県の畜産政策の要である研究機関で発症したことは誠に申し訳ない」と謝罪。農林水産省の指針に基づき、24時間以内に殺処分、72時間以内に埋却や消毒作業を行う。

県によると、先月16日と26日に研究部で食欲不振の豚が見つかったが、血液検査や遺伝子検査で陰性を確認。同30日から

今月3日にかけて4頭が体調を崩したため、県が遺伝子検査を行ったところ、感染を疑わせる結果が出たため、国にも検査を依頼していた。

県畜産研究所養豚・養鶏研究部は岐阜市の1例目の発生農場から約15キロの距離。県は半径10キロ以内の関市や美濃加茂市などの5農場(計8978頭)を搬出制限とし、同じ食肉処理施設を利用していた2農場に立ち入り検査を実施する。

農林水産省は5日、対策本部の会議を開催した。吉川貴盛農相は「県の研究所で発生したのは極めて重要だ。影響が大きい」と述べ、早急に対応するよう指示した。



豚コレラの発生確認を受け、防護服姿で施設に入る作業員ら
11月5日午前9時57分、美濃加茂市前平町、県畜産研究所

